



〈研究〉銀行ナル名辭ノ由来ニ就テ(5)

武藤, 長藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 24(6):913-924

(Issue Date)

1918-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052896>



銀行ナル名辭ノ由來ニ就テ (其五)

長崎高等商業學校教授

商學士 武藤 長藏

五

「銀行ナル名辭ノ由來ニ就テ」ト題スル予ガコノ研究録ハ本年一月號ニ先ヅ第一「Bank」ヲ銀行ト譯セザリシ例」トシテ(其一)辭書ニ就テ、二月號ニハ(其二)明治前後ノ翻譯書ニ就テ、三月號及五月號ニ於テハ(其三)聖書ニ現ハルタル兩替屋又ハ銀行ニ該當スベキ文字ニ就テ考證セリ。今コノ六月號ニ於テ先ヅ第二「Bank」ヲ銀行ト譯セシ例ヲ示スベキガ順序ナリ。而シテ最後ニ銀行ナル名辭ノ由來ニ就テ予ノ結論ニ到達スベキ也。

ソレニ先チテ予ハ前ニ號ヲ重ネテ述ベ來リタル部分ニ就テノ補綴追加ヲ試ミン事ヲ欲ス。讀者暫ラク乞フコレヲ許サレヨ。

却說予ハ先ニ英語ノ所謂 Bank (獨逸語 Bank 蘭語 Bank) 等ヲ銀行ト譯セザリシ幾多ノ例ヲ掲ゲタリ

又ソレト關聯シテ銀行業者 (英語 Banker 獨逸語 Bankier 蘭語 Bank) 等ノ又兩替屋ニ當ル文字ニ就テ考證セリ。

(附註) 徳川時代ニハ未ダ銀行ナル名稱ヲ以テ銀行ノ業務ヲ營ムモノナク各種ノ所謂兩替店存在セリ茲ニソレ等ノ沿革ハ之ヲ述ブ

ベキ場合ニアラズ大阪ニ於ケル各種ノ兩替店ノ沿革ニ就テハ大阪市史第五(大阪昔時ノ信用制度)其他ニ詳也

大阪ノ十人兩替屋ハ爲替用達ヲ命ゼラレタリ所謂爲替十人組是也、其他幕府ノ爲替方、諸大名ノ金融機關タル掛屋、江戸幕府旗本ノ札差等徳川時代ノ各種金融信用ノ機關トシテ銀行業發達史上重要ナルモノニ就テハ故横井時冬氏ノ日本商業史等其概要ヲ記述ス

尙又英語 Bank、佛語 Banque ヲバ英佛語辭書ニテ爲替會社又ハ爲替座ト譯セシ例ヲモ示セリ

(一月號記載明治六年長崎柴田氏英和辭書同年東京日)而シテ此等ノ名稱ハ明治ノ初年實際社會ニ用ヒラレタルモノ

也例へば東京爲替會社又ハ爲替座三井組ト云フガ如シコレ等ハ銀行ノ名稱ナキモ其實一種ノ銀行也

(附註一)

爲替會社ハ明治二年ニ會計官ニ屬スル通商司ノ監督ノ下ニ設立セラレ銀行ノ名稱ナキモ其實一種ノ銀行也。(其資本ハ富豪ヨリ之ヲ募リ政府亦資金ヲ貸下ゲンレニ諸預リ金ヲ加ヘテ爲替、貸付兩替等ノ業ヲ營ミ又融通ノ便ヲ計ル爲メ準備金ヲ置キ金券、銀券、錢券、洋銀券發行ノ特典ヲ有ス東京、橫濱、新潟、西京、大阪、神戸、天津、敦賀等ノ各地ニ設置セラレタリ、其詳シキハ明治財政史第十二卷第十四編銀行第二、三章爲替會社ノ部最モ參考スベシ

次ニ故文學博士橫井時冬氏著日本商業史維新後ノ商業史、遠藤芳樹著日本商業志下篇、瀧澤直七著稿本日本金融史論等アリ又予ハ市立大阪高等商業學校銀行業務研究室中備付ノ古札便覽中明治發行爲替會社札ノ部ノ參考スベキヲ發見セリ尙右大阪高商ノ研究室所藏法規分類大全第一編政體門制度雜款貨幣ト題スル内ニ各港二分判收包封雜形ノ部(第四百十頁ヨリ四百十三頁)神奈川裁判所町觸ノ部(第四百二十八頁)及民部大藏兩省達(第四百三十三頁)ノ部等ニ爲替會社ニ就テ參考スベキ記事ヲ發見セリ

(附註二)

「爲替座」ナル語ハ實際社會ニ用ヒラレタリ例ヘバ「爲替座三井組」ト云フガ如シ

明治壬申(明治五年)正月新刊外史局編纂布告全書明治五年第一冊第六號(正月十四日)ニ曰ク「今般北海道開拓使ニ於テ爲替座三井組ヘ申付政府在來ノ古金銀ヲ引當トシテ金二百五十萬圓ノ正金引換證券十圓五圓一圓五十錢二十錢等六種ヲ製造シ來ル十五日ヨリ發行致シ海關稅ヲ除クノ外租稅其他ノ上ハ勿論日用公私ノ取引ニ至ル迄總テ正金同様通用セシメ候且右證券ノ儀ハ大藏省發行ノ證券ト同模樣ニテ開拓使印并次官ノ檢印ヲ押區別相立東京大阪箱館三ヶ所ノ三井組ニ於テ新貨幣出來次第追々可引換尤至急申出候者ハ在來ノ二分判ヲ以引換遣シ候條諸民一毫ノ疑念ナク從前金札同様互ニ通用可致此段相違候事

(附註三)

明治十年松平容保ハ地券爲替座ナルモノヲ開設セントシテ時ノ大藏卿大隈重信ニ出願セシガ自由爲替座ト同一性質ノモノト認メラレ直ニ却下セラレタリ

次ニ(其三)聖書ニ現ハレタル兩替屋銀行等ノ文字ニ就テ予ハ三月及四月號ニ亘リテ考證ヲナセシガ

ソハ

(甲) 新約聖書馬太傳第二十一章第十二節

(乙) 同 馬太傳第二十五章第二十七節

(丙) 馬可傳第十一章第十五節 (三月號ニ馬可傳第二十一章ト印刷サレ居ルハ誤植)

(丁) 路可傳第十九章第二十三節 (三月號ニ(丁)ノ字ヲ落シ四月號ニ(丁)ト印刷サレ居ルハ共ニ誤)

四個處ニ止メシガ完キヲ期スレバ尙

(戊) 新約聖書約翰傳第二章第十四節及第十五節

ヲ加フベキ也

約翰傳 (St. John) 第二章第十四節及第十五節ヲ日本譯聖書トシテ從來新敎ニテ廣ク行ハレタル大英國北英聖書會社ノ日本譯新約聖書ニヨレバ

第十四節殿ニテ牛羊鵠ヲ賣者ト兌換スル者ノ坐セルヲ見

第十五節總ナモテ鞭ナツクリ彼等ガヨビ羊牛ヲ殿ヨリ逐出シ兌換スル者ノ金ヲ散シ其案ヲ倒シ

ナル句アリ。大正六年ノ改正譯ニハ「兩替する者」ト譯セリ。公敎宣敎師ラゲ氏ハ「兌換する者」ト記サズシテ兩替屋ト譯セリ。

東京帝國大學文科大學講師文學士石橋智信氏所藏「新嘉坡夏堅書院藏板」「善德纂」ニ係ル「約翰福音之傳」ニハ次ノ如ク譯文ハ平假名ノ由、石橋文學士ヨリ報告アリタリ

十四

ヒートワテヲ井ウシ ムクヒツジ ハトウルモノチ、リヤウガヤコシカゲテチルモノチミタ。十五 ヒトワナツチ モテキテ、クンデシベチコシラエル、ミナ(ムクヒツジ)ウシチ テラノントエ ダ非テヤル、リヤウガイヤノゼニナバラマケテ、カキモノダ非 ヒクラカヤス

(附記)

コノ新嘉坡版ノ「約翰福音之傳」ハ予ハジメテ石橋文學士ヨリコレヲ聞知セリ同文學士ハ此珍本ヲ獨逸留學中ライプチヒノ「小古木屋ニテ買求メラレ」Nachod氏ハ此書ハ歐人ガ日本ニ入ル前新嘉坡ニテ印刷發行セシモノナラントノ説ヲ立テシ由ナレドコハ信ズベカラズトハ石橋文學士ノ説也此珍本出版ノ由來ニ就テ識者ノ教ヲ仰ガン事ヲ予ハ石橋文學士ト共ニ熱望スルモノ也コレ茲ニ附記スル所以也

英譯聖書ハ改正英譯ニテハ Changers of money 又略シテ Changers ト譯シ、二十世紀新約聖書ニ

Money-Changers 佛譯聖書ハ Changeur 獨逸譯聖書ハ Wechseler トアリ其他ハ煩シケレバ略ス。

大清光緒二十九年 (1903) 支那官話譯ニハ兌換銀錢の人トアリ。大清宣統二年 (1910) 新約全書ニハ兌換銀錢の人ト譯セリ。要之孰レモ銀行ナル文字ヲ用ヒズ。

以下序ナガラ前々號ニ亘リ掲ゲタル馬太傳馬可傳及路可傳ノ異譯本ニ就テ追録セントス。東京帝國

大學文科大學講師文學士石橋智信氏所藏明治九、十年北英國聖書會社 (National Bible Society of

Scotland) 發行「橫濱上梓」馬太傳第二十五章第二十七節ハ次ノ如シ。

『シカラバツガカナチ兌換舖ニアヅケガクベキナリ。サラバツガカヘリタルトキ本ト利トナウクベシ』

文學士石橋智信氏所藏明治九、十年發行橫濱上梓「北英國聖書會社 (National Bible Society of

Scotland) 發行新約全書路可傳第十九章第二十三節ニハ

『シカルニ何ゾツガキタルトキ本ト利ヲエンガタメニツガ金ヲ爲替座ニアヅケザリシヤ』

トアリテ爲替座ナル名辭ヲ使用サレ居ル由石橋文學士ヨリ通報ヲ得タリ。

故小幡篤次郎氏所藏和本(現佐々木勇太郎氏所藏)新約聖書卷之二馬可傳福音書第十一章第十五節

『カレラエロソルマニイタリ耶蘇神殿ニイリテ賣買スルモノヲ神殿ヨリオヒイダシハジメテ兌換者ノ案鶴だいはちチウルモノ、椅子いすナタナシ』
 『ヘコノ和本新約聖書ハ出版年月ヲ示サズ石橋文學士ヨリ通報ヲ得タル同君所藏ノ和裝本トハ此本ナラズヤ兎モ角有文句同一也石橋文

學士所藏本モ發行所發行地發行年代ヲ示サズト云フコノ版本ニ就テモ予ハ識者ノ教ヲ仰ガン事ヲ希フモノ也

予ハ Eder (花之安)ノ(馬可講義)ノ如キ之ヲ參考スルノ便ナク、漢譯聖書及日本譯聖書ニ就テ出版ノ年代ヲ追フテ充分系統的ニ譯語ノ變遷ヲ研究スル能ハザリシハ予ノ甚ダ遺憾トスル處也。

我國ノ基督教ノ學校圖書室中セメテ日本又ハ支那譯聖書ダケニテモ各版保存サン居ルモノアルチ予ハ不幸ニシテ未ダ聞カズ又學者牧師中コノ種ノ研究ニ就テ教ヲ仰グベキ人ニ未ダ接セズ。予ハ西陲僻遠ノ地ニ孤獨研究ニ從事シ此感深シ。

各國語各種各版ノ聖書ハ帝國大學言語學研究室又ハ宗教學研究室等ニテモ出來得ル限り多ク蒐集備付グルチ可トスベシト信ズレド事實何程蒐集サレ居ルヤ未ダ充分ニ確ムルニ至ラズ又予ハ之ヲ利用スルノ便少ナキヲ嘆ズルモノ也。

六

却說前述ノ如ク第二 Bankヲ銀行ト譯セシ例ヲ示スベキガ順序也、而シテ其前ニ Bankノ譯語トシテ「バンク」ニ就テ茲ニ略述スルヲ要ス。

Bankノ譯語トシテ銀行ナル名辭ノ我國ニ於テ(支那ニ於ケル銀行ナル名辭)一般ニ使用サルニ至リシハ明治五年國立銀行條例發布前後也(前ト云シハ發布少シ前ニ銀行ナル名辭ヲ使用シタルノ例アリキアラズ但シ廣ク一般ト云フナ得ズ廣ク一般ニ行ハレタルハ其以後ノ事ナリ又國立銀行發布後銀行ト云ハズ「バンク」爲替會社^{等ノ舊キ名辭殘存セリ}) Bankノ譯語トシテ銀行ナル名辭ノ未ダ一般ニ用ヒラレザルニ當リ Bankノ發音ヲトリ「バンク」ト呼ブ事一般ニ行ハレ銀行ナル譯字ノ用ヒラル、ニ至リシ後モ猶暫ラク「バンク」ナル語ノ用ヒラレシ事ハ其例少ナカラズ。「バンク」ナル名稱ガ明治初年ノ翻譯書ニ用ヒラレシ事ノ例ハ本誌二月號所載第一 Bankヲ銀行ト譯サバリシ例(其二明治前後ノ翻譯書(乙)明治以後其初年ニ當リ英語ヨリ譯シタル辭書以外主トシテ商業經濟書(b)(c)等ノ例ニ於テ之ヲ述ベタリ。予ハ左ニ「バンク」ノ名稱ガ公文書ニ用ヒラレタル例ヲ示シコノ名稱ト關聯シテ三井組、東京銀行小野組江洲會社等ハ政府トノ交

涉ニ就テ次下略叙シカネテ「バンク」ナル名稱ヨリ「銀行」ナル名辭ノ採用サル、ニ至リシ事實ノ一端ヲ示サントス。

附註

鐵道ノ停車場ヲステーショント記シ「ステーション」トハ列車ノ立場ニテ旅客ノ乗リ下リ荷物ノ積ミ下ロシチ爲ス所チ云フ」ト註釋の文句ナ法文中ニ挿シアルノ例明治壬申（五年）鐵道略則第二條中ニアル事ハ布告全書明治五年第五冊第四百四十六號ニ明ナリ（外史局編纂明治壬申五月新刊布告全書參照）

明治四年七月三井組「バンク」設立ノ出願ハ名代三野村利左衛門名義ニテ大藏省ニ請願書ヲ提出セ
ラレタリ其願書ノ終リニ次ノ文句アリ。

此處同苗申令東京府下及各開港場ニ於テ銀行開業仕追々歐羅巴及米利堅等成熟ノ其法ヲ斟酌イダシ云々依テ證券注文員數並發行手續證券雛形等相添願上候 以上

明治四年辛未七月

御爲替座三井總頭

八郎右衛門名代

三野村利左衛門

大藏省御中

而シテ其願書ニ添付シタル證券發行ノ手續中ニ左ノ文句アリ。

此證券ハ英國政府ノ銀行「バンク、オブ、インカランド」發行ノ法ニ倣ヒ内地一般ノ諸税ノ上納物其此外借貸商賣共交通候様御尤可被成下度候事

右三井組ニ次ギテ開業ヲ出願セシハ銀行ノ名ヲ用ヒシ東京銀行ナリ同行ノ設立願書ニ

「西洋普遍ノ「パンク」法ニ倣ヒ一國ノ會社ヲ結ビ起シ」ナル文句アリ」

右東京銀行設立ノ請願書ハ明治四年十二月提出セラレタリ。

横井時冬氏著日本商業史維新後ノ商業史第六編第六十四章銀行ノ部ニ此東京銀行ノ事ヲ序シ

歐米ノバンク(Bank)ニ倣ヒタル銀行設立ノ舉ヲ企テタルハ蓋シコレヲ嚆矢トスベシ

トアレド嚴格ニ云ヘバ次ノ如ク訂正スベキモノナラズヤ。曰ク

「銀行」ノ名稱ヲ附シタルモノハ東京銀行ヲ嚆矢トスベキモ歐米ノ「バンク」Bankニ倣ヒタル三井組「バンク」設立ノ出願ハ東京銀行コ先立テリ

東京銀行ニ次デ出願セシハ小野組ナリ小野組ハ明治五年二月紙幣寮ニ對シテ請願書ヲ出セリ。其最初ノ願書ニアル如ク歐羅巴各洲私名「バンク」三法（此文句ノ意味ハ歐洲諸國私立銀行ノ法ノ事也）ニ倣ヒ所謂私名「バンク」（私立銀行ノ意）ヲ設立セントスルニアリ。

然ルニ時恰モ國立銀行條例發布ノ際ナリシカバ政府ハ其發布後國立銀行トシテ設立セシメン考ニテ容易ニ許可セザリシカバ小野組ハタゞ「バンク」ノ名稱ノミノ許可ヲ重ネテ出願セリ其出願書中ニ『私名「バンク」座名稱丈ケ官許ヲ奉蒙候ハゞ』トアルハ即チ夫也。

其請願書中ニ前述ノ如ク私名「バンク」ナル名稱ヲ用ヒ居ルト共ニ又私名「爲替座」ト云ヒタル個所アリ。而シテ其出張店ヲ「出張座」ト云ヘリ。其文句ニ曰ク

「東京大阪ナ根軸ニテ西京神戸長崎橫濱共出張座取建衆民之便利ヲ助候様被仰付被下置候ハゞ寔加至極有仕合奉存候」

然レドモ政府ハ「バンク」ノ名稱ヲ直チニ許可セズタゞ「バンク」創立ノ豫定ニテ單ニ家屋ヲ建築スルコトノミヲ許可セリ。

「バンク」ノ名稱許可ヲ得ザリシ小野組ハ同年八月國立銀行條例ノ頒布セラル、ニ及ビ茲ニ三井組ト合併共同シテ國立銀行ヲ創立セリ第一國立銀行即チ是ナリトハ明治財政史第十二卷第十四編第三章五百十一頁ニ明記スル處ナリ。サレド予ガ他ヨリ知り得タル處ニシテ誤ナシトセバ明治五年八月六日創業ノ三井組合銀行ナルモノ中間ニ存在セシ事アリ。コレガ「銀行」ナル名稱ヲ以テ實在セシ最初ノ銀行

ナリト云フ、此^{三井}組合銀行ト第一國立銀行トノ複雑ナル歴史千係ニ就テハ今茲ニ詳述スル能ハザルヲ遺憾トス。

サテ明治財政史ノ記スル處ニヨレバ小野組ニ次デ明治五年三月「バンク」ノ名稱許可ヲ出願セシ江州會社即チ大津爲替會社モ遂ニ「バンク」ノ名稱許可ヲ得ザリキ。又明治財政史ノ記スル處ニヨレバ「私立銀行ニシテ始メテ銀行ノ名稱ヲ唱フル事ヲ許可サレシハ三井銀行ニシテ其出願ヲナセシハ明治八年七月七日ナルガ其許可ヲ得シハ明治九年八月國立銀行條例改正セラレ第二十二條第三節ノ明文削除セラレ一般會社モ亦銀行ノ名稱ヲ付スルヲ得ルニ至リシカバ三井組ハ直ニ三井銀行ト改名セリ」ト云フニアリ。

サレド明治財政史ガ前述ノ明治五年八月六日創業ノ^{三井}組合銀行ニ就テ一言ナキハ如何。

七

第二 Bank ヲ銀行ト譯セシ例。

我國ニ於テ Bank ヲ銀行ト譯セシ最モ大切ナル例ハ明治五年ノ國立銀行條例ナリ。故ニ先ヅ其由來ヲ以下述ベントス。

明治三年十月三十日我國ヲ發航シ米國華盛頓府ニ着後同年十二月二十九日付ヲ以テ建白セシ三事ノ一タル紙幣發行會社ヲ設立スル事ハ彼國「ナシヨナル、バンク」ノ制度ニ倣ハントスルニアリ、コノ提議ニ基キ國立銀行條例ノ制定セラル、ニ至レリ。明治四年二月三十日(舊曆)附少丞澁澤榮一ヨリ在米

ノ少輔伊藤博文ニ送りシ私書中「ナシヨナル、バンク」發行紙幣ナル名稱アリ。又明治四年四月一日大隈參議井上少輔ヨリ在米伊藤少輔宛ノ書信ニ「會社發行紙幣」ノ名稱ヲ用ヒ銀行紙幣トハ云ハズ。又同月二日付大藏省ヨリ伊藤博文宛公文回答中ニハ「バンク、ノート」ト記シ Bank Note ヲ銀行紙幣又ハ銀行券トハ稱シ居ラズ。明治四年六月伊藤博文歸朝後米國制度「ナシヨナル、バンク」ト英國制度「ゴールド、バンク」採用ニ就テ議論アリ。明治四年十二月二日付吉田大藏少輔井上大藏大輔ヨリ米國派遣中ノ官吏中島信行吉田二郎兩名宛ノ書簡ニハ「ゴールド、バンク」「ナシヨナル、バンク」ト記ス。

然ルニ同年(明治四年)末我政府「ナシヨナル、バンク」ノ制ヲ採用スルニ決シ、大藏省內ニ銀行條例編纂掛ヲ設ケ紙幣頭濤澤榮一同權頭芳川顯正等ヲシテ專ラ該事務ヲ管掌セシメタリト云フ、然ラバ明治四年末ニ「銀行」ナル名稱ガ既ニ官名トナリタルヲ知ル。

尙明治財政史ノ記スル處ニヨレバ、右銀行條例編纂掛ハ曩ニ伊藤少輔ヨリ送附セル米國紙幣條例(米國國立銀行法)ヲ基本トシ之ニ歐米諸國ノ法規ヲ參酌シ兼テ我國ノ實情ニ照シテ審議立案シ又別ニ之ガ施行細則タルベキ成規ノ編成ニ着手シ明治五年六月條例成規ノ草案全ク成リ之ヲ太政官ニ上呈シテ允裁ヲ仰ゲリ。其稟議書中ニハ「公債證書引當紙幣發行ノ銀行創立云々」ノ文句アリ。又次ノ如キ下ゲ紙アリシト云フ。

本文國立銀行ノ文字ハ「ナシヨナル、バンク」ノ原語ヲ直譯ノ心得ニ候得共穩當ニモ可有之哉尙御覽考有之候様仕度奉存候也

太政官ハ同年八月五日右國立銀行條例ヲ裁可シ同十一月布告セリ其文中「銀行」「國立銀行」ノ名稱ヲ使用セリ。明治壬申十一月新刊外史局編纂布告全書十一ノ中ニ所載國立銀行條例ヲ見ルニ

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ通用紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケテ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々如左
ヒキテテ
ヒキテモトキン

トアリ。

サテカク銀行ナル譯語ノ使用サル、ニ至リシハ國立銀行條例制定ニ際シ英語ノ National bank ヲ翻譯スル必要上ヨリ澁澤榮一氏ガ他ト相談ノ上「銀行」ナル譯字ヲ按出セリトハ澁澤氏ノ自白也。

本誌一月號所載拙稿ノハジメニ引用セシ如ク青淵先生六十年史第十一章銀行業第一節ノ緒言ニハ『銀行ト云ヘル名稱ハ先生ガ初メテ Bank ノ譯字ニ用ヒタルモノ也、支那語ノ何洋行ナド云ヘルニヨリ考付タル也』ト簡單ニ記述シアレドモ第二節銀行創立ノ顛末中ニハ明治二十八年日本經濟會員ノ請ニヨル我國銀行創立ノ顛末ヲ演說シタル筆記ヲ掲グ其部分ニハ

『先ツ亞米利加ノ銀行規則ヲ翻譯シテ之ニ倣フテ日本ノ銀行條例ト云フモノヲ作ルニ取調ナスルガ宜シカラウト云フ事テ四年ノ十月頃(明治財政史第十四編第五章第二項國立銀行條例及同成規ノ部ニ記スル處ニヨレバ明治四年ノ末ニ至リ吾ガ政府ノ議漸ク「ナシヨナル、バンク」ノ制度ヲ採用スル事ニ決定シタルヲ以テ大藏省ニ於テハ特ニ其省內ニ銀行條例編纂掛ヲ設ケ紙幣頭澁澤榮一同澁頭芳川顯正等ヲシテ專ラ該事務ヲ管掌セシメ云々トアリ)漸ク議定シテ私モ其時分大藏大丞ヲ勤メ居リマシタカラ始終其議論ニ參與シテ終ニ此條例ヲ組立ルニ付テハ私ガ其主任ニ成ツテ調ベルト云フコトニナリマシタ夫レカラ伊藤伯ノ送り越サシテ原書ノ翻譯文ヲ綿密ニ吟味シテ一々日本ノ文ニ當テハ條例文ヲ組立テマシタガ此時ニ起テ説ハ第一亞米利加ノ原名ハ餘リ長過ぎル「ナシヨナル」ト云フハ國ト云フコトダ「バンク」ト云フノハ金ヲ取扱フ場所ダソレニハ何トカヨイ名ハナイカ。兩替屋モ餘リ下品ノ名ナリサテ何ト云フ名ニシタラヨカラウト大ニ困却シテ彼ノ學者此ノ先生ト種々相談ノ上行ト云フ字ハ支那探テハ洋行トカ商行トカ云フテ商店ニ用フル字ダ「ナシヨナル」ト云フハ國ト云フ事ナレドモ國ノ一字デハ熟字トナラヌカラ國立トシヤウ又金行、云フモ妙デナイカラ銀行トシヤウト云フノデ終ニ國立銀行ト云フ名ガ生レテ來タノデアリマス其前ニ福地源一郎氏ガ他ノ翻譯書ニ銀舗ト譯シタコトガアツタレド寧ろ銀行ノ方ガ宜イト云フコトテ總令委イ名ナリ惡イ名ナリ始メテ定マツタノデアリマス』

トアリ。又コレト類似ノ澁澤氏ノ談話ハ澁澤男ノ「實業講演」乾一八二頁ニアリト云フ(余ハ未ダ此澁澤男ノ講演集ヲ見

ズ東京銀行通信錄第六十四卷第三百八十四號所載石澤久五郎氏ノ明治時代ノ銀行發達史(一)中ニ引用サレ居ルヲ見タリ)予ハ右澁澤男ノ説明ノミニテハ氷解シ得ズ種々ノ疑問アリ。

右説明ニヨレバ澁澤氏ハ明治五年ノ國立銀行條例ヲ制定スルニ當リ明治四年中(明白ニ其時日ヲ確ムル能中ナラン)ニ右譯字ヲ他ノ學者先生等ノ相談ノ結果定メラレシト云フニアリ。其相談ヲ受ケシ所謂學者先生トハ何人ナル乎。伊藤博文氏ハ其譯語選定ニハ何等干係ナキ乎。福地源一郎氏ハ如何。澁澤氏ノ云ハル、如ク福地氏ハ「銀舖」ナル譯語ヲ使用セシハ如何ナル翻譯書ニ於テナル乎。予ガ本誌二月號ニ掲ゲタル如ク福地氏譯大藏省出版ノ會社辯ニハ Bank ヲ會社ト譯セシ例アレドモ「銀舖」ナル例ハ右彼ノ譯書中ニ未ダ發見セズ英華字典ニハ其先例アリ。又拙稿(其二)(乙)(c)明治七年上編出版ノ堀越愛國譯經濟論ニモ其例アリ。

Bank ヲ銀舖ト翻譯セシ例ハ福澤諭吉氏ノ翻譯(原書ハ支那ニ於テ出版咸豐乙卯即チ咸豐五年(西曆一八五五年)ノ序文アリ)「華英通語」中ニアル事ハ一月號所載拙稿中ニ掲ゲシ處ノ如シ。

明治三年福地源一郎氏譯會社辯(明治四年辛未九月大藏省出版)小引ノ一節中「銀行」ノ文字ヲ使用セリ即チ次ノ如シ。

「會社トハ總テ百般ノ商工會同結社セシモノヲ通稱ニテ常例英語「コンパニー」コルホレーション」ヲ適譯ニ用ヒ來リ特ニ銀行ニ限ルノ義ニ非ズト雖モ今此書暫ク「バンク」ヲ譯字トシテ銀行ノ字ニ代用ス」

澁澤氏ガ此注意スベキ事實ニ就テ何等云フ處ナキハ如何。澁澤氏又ハ同氏ノ相談セシ所謂學者先生ハ西曆千八百六十六年(慶應二年)香港ニテ刊行セラレ我國ニモ輸入使用セラレタル英華字典ヲ參考スル處ナカリシ乎。英華字典ニハ Bank ノ譯語ニ銀行銀舖ヲ初メトシテ銀號錢舖、錢庄銀店等ヲ掲ゲ、

又 Bank of England ヲ大英國銀行ト譯セシノミナラズ、滙理銀行、借銀行、揭銀行等ノ例ヲモ示セリ、コレ好キ參考ナラズヤ。澁澤氏自身ハ兎モ角福地氏又澁澤氏ノ所謂學者先生ガコレヲ參考セザリヤ。コレ我國ニ於ケル Bank ノ譯語トシテノ銀行ナル名辭ノ由來ヲ究ムル上ニ大切ナル問題也。福地氏ハ既ニ故人ナレバ尋ヌル能ハズ、予ハ澁澤男爵其他當時ノ干係者ニ精確ナル報道ヲ求メザルヲ得ズ。

又徳川時代ノ學者伊東長胤著名物六帳人品箋ニアル(一)金銀行(イナウガヘヤ)(楊升庵集ニ據ル)(二)金銀行(キンギンサイナシヨリ)《百》(侍兒小名錄ニ據ル)コノ語ハ柴貞穀小輔重修辻言恭子禮校字雜字類編卷之五人品ノ部ニモコレヲ見ル)等ノ用例ヲ澁澤氏等ハ氣付カザリシニヤ。假令澁澤男ノ云ハル、如ク「國立銀行」ノ「銀行」ナル名辭ハ右英華字典ニ關係ナク、又支那ニ銀行ナル名辭ノ既ニ存スル事ヲ知ラズシテ偶然澁澤氏等ノ頭惱ヨリ製造シタルモノナリトスルモ、銀行ナル名辭ノ支那ニ於ケル由來ハ別ニ研究ヲ要スル問題トシテ殘存ス。コレヲ解決セザレバ予ガ「銀行ナル名辭ノ由來」ト題スルコノ研究モ完カラザル也。乞フ以下節ヲ改メテコレヲ述ベン。(未完)